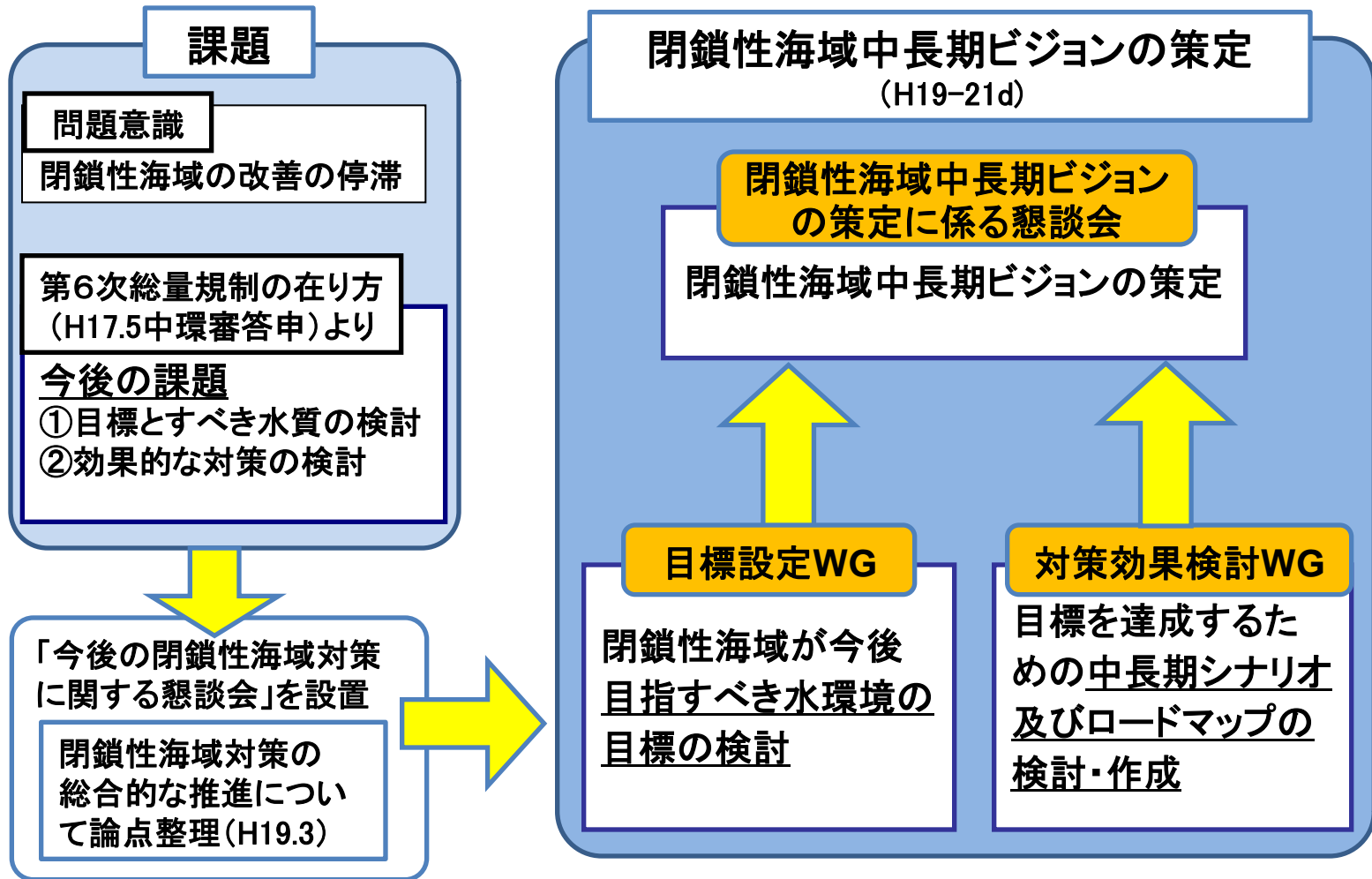


閉鎖性海域中長期ビジョン(H22.3)



目指すべき水環境の目標の検討①

・閉鎖性海域が目指すべき水環境の目標として、底層DOと透明度の目標値を検討

(1) 底層DO

①魚介類の生息域の確保のための底層DO

- －保全対象の魚介類が生息している或いは将来生息することを目指す海域に適用
- －保全対象の魚介類の個体数が有意に減少しないような目標を設定

②魚介類の再生産の場の確保のための底層DO

- －産卵期あるいは発育段階初期に生息する水域及び時期に上乗せして適用
- －発育初期の個体や産卵期の個体など再生産に係る個体の生存が確保され、かつ、産卵期の個体に忌避行動等の異常行動を生じさせないような目標を設定

③無生物域の解消のための底層DO

- －保全対象魚介類の生息を利用目的としない水域に適用
- －無生物域とならないよう、貧酸素耐性が強い種の生存が確保される目標を設定

魚介類の生息域の確保のための底層DO目標の水域類型区分

水域類型	水生生物の生息状況の適応性	底層DO目標値
a	溶存酸素の減少に対する耐性が著しく弱い魚介類でも成魚及び未成魚段階で生息できる水域及びb類型以下の欄に掲げる水域。 目標設定種：トラフグ	5 mg/L以上
b	溶存酸素の減少に対する耐性が弱い魚介類でも成魚及び未成魚段階で生息できる水域及びc類型以下の欄に掲げる水域。 目標設定種：スズキ、マナマコ	4 mg/L以上
c	溶存酸素の減少に対する耐性が弱い魚介類を除く種が成魚及び未成魚段階で生息できる水域及びd類型の欄に掲げる水域。 目標設定種：カサゴ、マダイ、ハタタテヌメリ、ネズミゴチ、マコガレイ、クルマエビ及びシャコ	3 mg/L以上
d	溶存酸素の減少に対する耐性が強い魚介類が成魚及び未成魚段階で生息できる水域。 目標設定種：マハゼ、ヨシエビ、サルエビ及びガザミ	2 mg/L以上

魚介類の再生産の場の確保のための底層DO目標の水域類型区分

水域類型	水生生物の生息状況の適応性	底層DO目標値
特 a	溶存酸素の減少に対する耐性が著しく弱い魚介類でも、産卵行動及び卵期・仔魚期・稚魚期（稚エビ期、稚ガニ期等）の段階で利用できる水域及び特 b 類型以下の欄に掲げる水域。 目標設定種：トラフグ	5 mg/L以上
特 b	溶存酸素の減少に対する耐性が弱い魚介類でも、産卵行動及び卵期・仔魚期・稚魚期（稚エビ期、稚ガニ期等）の段階で利用できる水域及び特 c 類型以下の欄に掲げる水域。 目標設定種：スズキ、ガザミ及びマナマコ	4 mg/L以上
特 c	溶存酸素の減少に対する耐性の弱い魚介類を除く種が、産卵行動及び卵期・仔魚期・稚魚期（稚エビ期、稚ガニ期等）の段階で利用できる水域及び特 d 類型の欄に掲げる水域。 目標設定種：カサゴ、マダイ、ハタタテヌメリ、ネズミゴチ、マハゼ、マコガレイ、クルマエビ及びシャコ	3 mg/L以上
特 d	溶存酸素の減少に対する耐性の強い魚介類が、産卵行動及び卵期・仔魚期・稚魚期（稚エビ期、稚ガニ期等）の段階で利用できる水域。 目標設定種：ヨシエビ、サルエビ	2 mg/L以上

無生物域の解消のための底層DO目標の水域類型区分

水域類型	水生生物の生息状況の適応性	底層DO目標値
e	内湾域の底層を利用する魚介類以外を含めた水生生物のうち、貧酸素耐性が最も強いと考えられる生物の生存が確保される水域。 目標設定種：シノブハネエラスピオ	2 mg/L以上

目指すべき水環境の目標の検討②

(2) 透明度

① 海藻草類の生育に必要な透明度

－ 海藻草類の良好な生育を妨げない程度の光量が確保できる透明度の目標を設定

② 親水利用からみた透明度の目標

－ 海域で行われる親水利用の場が支障なく利用される透明度を目標として設定

－ 対象とする主な親水利用行為：海水浴、釣り、散策、展望(景観)、海中展望

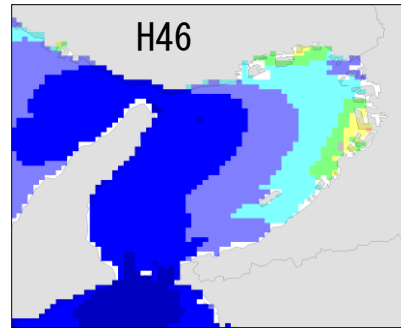
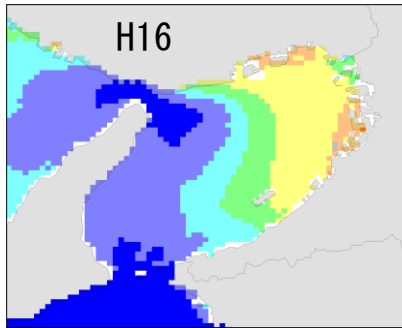
海藻草類の生育に必要な透明度の目標に係わる透明度目標値の水域類型区分

水域類型	海藻草類の生育状況の適応性			透明度目標値
	生育下限水深 (m)			
	透明度の低下に対する耐性が弱い海藻草類でも生育できる水域。 目標設定種：アマモ	透明度の低下に対する耐性が弱い海藻草類を除く種が生育できる水域。 目標設定種：アラメ	透明度の低下に対する耐性が強い海藻草類が生育できる水域。 目標設定種：カジメ	
海藻草類 a	8	10	13	8 m以上
海藻草類 b	6	7	9	6 m以上
海藻草類 c	5	6	8	5 m以上
海藻草類 d	4	5	6	4 m以上
海藻草類 e	3	3	5	3 m以上

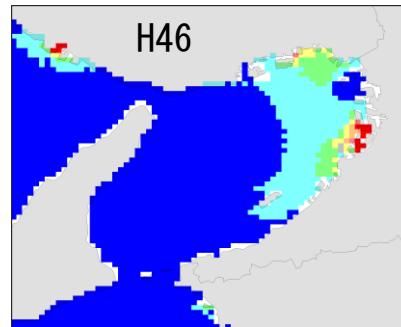
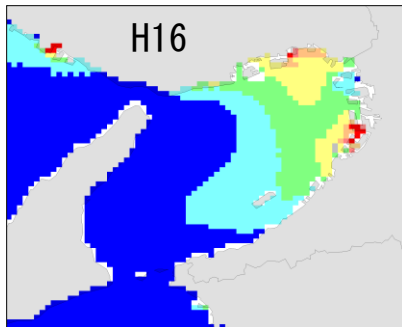
親水利用からみた透明度の目標値の水域類型区分

水域類型	利用目的の適応性案	透明度目標値
親水 a	海中展望・ダイビングに利用される水域	10m以上
親水 b	釣り、散策及び眺望に利用される水域	2 m以上
親水 c	海水浴に利用される水域	1 m以上

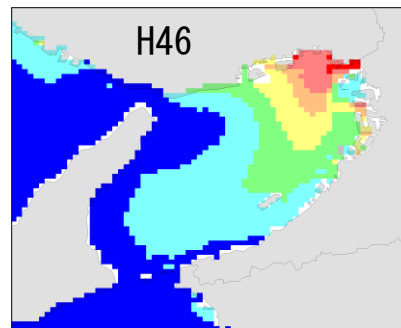
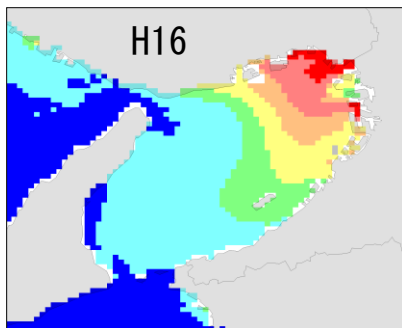
シミュレーション結果(大阪湾)



COD75%値(mg/L)	
0.0 ~ 1.0	A類型
1.0 ~ 1.5	
1.5 ~ 2.0	
2.0 ~ 2.5	B類型
2.5 ~ 3.0	
3.0 ~ 4.0	
4.0 ~ 6.0	C類型
6.0 ~ 8.0	
> 8.0	



T-N年平均値(mg/L)	
0.0 ~ 0.2	I類型
0.2 ~ 0.3	II類型
0.3 ~ 0.4	III類型
0.4 ~ 0.6	
0.6 ~ 0.8	IV類型
0.8 ~ 1.0	
> 1.0	



T-P年平均値(mg/L)	
0.00 ~ 0.02	I類型
0.02 ~ 0.03	II類型
0.03 ~ 0.04	III類型
0.04 ~ 0.05	
0.05 ~ 0.06	IV類型
0.06 ~ 0.09	
> 0.09	

シミュレーション結果(大阪湾)

